景　気
ウォッチャー
調　査

北陸地域の概要（2026 年 10 月調査）

一般財団法人　北陸経済研究所
調査研究部 主任研究員　辻野 秀信

景気の現状判断　物価高で節約志向が続く一方、こだわり消費と観光需要が景況感を下支え

現状判断ＤＩは、前月から 0.4 ポイント上昇の 49.8 とほぼ横ばいで推移。「食品全般で値上げラッシュが続いており、生活防衛としての買い控えが完全に定着している（一般小売店［鮮魚］）」と、日常的な消費に対する節約志向が続いているとの声が聞かれた一方で、「衣料品や服飾品への支出を控えている。趣味関連の商材の売行きは好調である（その他小売［ショッピングセンター］）」、「物価上昇は続いているが、提案力のある商品については購買意欲が強くなっている（衣料品専門店）」といった声もあり、消費者の関心を捉えた商品には積極的に支出する傾向もうかがえる。また観光関連では、「行楽シーズンで観光客が増えている（タクシー運転手）」、「観光や学会イベント等の予約客が好調に推移し、団体客は前年同月比で 30%上昇（都市型ホテル）」と、観光需要が景況感を下支えした。一方、「Web システムのぜい弱性の影響で一部売場において売上が大きく下がっている（競輪場）」との声もあり、システム面の問題が業績に影響を及ぼすケースもみられた。

景気の先行き判断　冬の観光需要に期待も、天候や光熱費への不安と人件費負担増が重荷

先行き判断ＤＩは、前月から 1.4 ポイント下落の 47.0 となった。「11 月は紅葉やカニなど冬の味覚を目的とした国内観光客が年間で最も活発になる時期であり、更なる観光客の増加が期待できる（商店街）」と、北陸の冬の味覚を目的とした観光需要の拡大に期待する声が聞かれる一方、「前年好調に推移した防寒アウターは、気候に左右されるため、今年の主力衣料品の動きが読めない（百貨店）」と天候が消費に与える影響や、「電気・ガス料金支援がないと、消費者の購買意欲低下につながる（一般小売店［事務用品］）」と、冬場の光熱費負担による購買意欲の低下を懸念する声もある。また、雇用面において「人手不足が改善する要素がなく、最低賃金が大幅に引き上げられて経営環境の厳しさは増す（民間職業紹介機関）」、「店によってはワンオペの時間帯を設けたり、オーナーが自らシフトに出たりするなどして対策を講じている（コンビニ）」、といった声があり、人手不足の長期化や人件費負担の増加が経営環境を一段と厳しくするとの声も聞かれた。

図１景気の現状判断DIの推移［季節調整値］

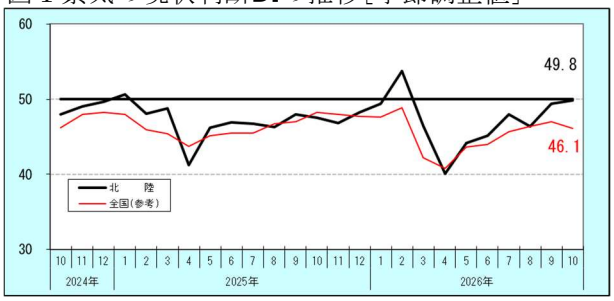
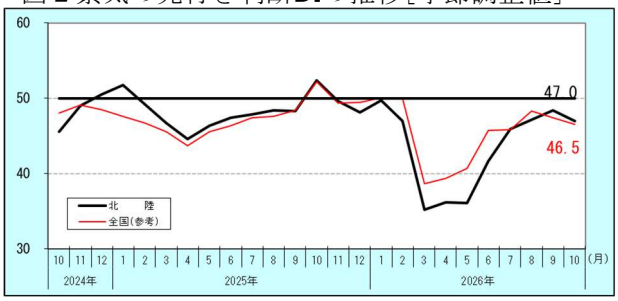


図２景気の先行き判断DIの推移［季節調整値］



●10月のアンケート内容

調査期間：2026年10月25～31日
調査対象：合計100名（うち回答者91名）
調査分野：・家計動向関連
　　・企業動向関連
　　・雇用関連

●景気の判断指数（ＤＩ）の算出方法

景気の現状や先行きに対する５段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。（良い＝＋１、やや良い＝＋0.75、変わらない＝＋0.5、やや悪い＝＋0.25、悪い＝0 ）　ＤＩが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の 2050 人を対象に全国 12 地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が 100 名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第６営業日に公表されている。

※ 詳細は 2026 年 11 月 26 日発行の「北陸経済研究 2026 年 12 月号」をご覧ください。

〈景気の現状に対する判断理由（３カ月前と比較して)〉

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・９月の大型連休以降、国内観光客とインバウンドが増えている印象を受ける。また、11月６日からのカニ漁解禁により、県外からの観光客とインバウンドがより一層増えると考える。例年どおりだと、地元客の忘年会などの宴会シーズンとも重なるため、このにぎわいが年末年始まで続くとみている。
	◎	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・観光や学会イベント等の予約客が好調に推移し、団体客は前年同月比で30%上昇した。全体の稼働率も６か月連続で前年を上回っている。
	○	一般小売店［精肉］（店長）	販売量の動き	・販売量は少し良い程度だが、値上げなどにより売上は増加している。高額商材が売れ出している。
	○	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・気温が例年並みで推移し、商品価格が高いなかでも販売量は落ちていない。現状の短期的な業績としては好調である。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は今年初めて、全ての部門で売上が前年を上回っている。県外団体客の売上単価が高いことが好調の要因である。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・行楽シーズンで観光客が増えている。また、クルーズ船が何隻も寄港しているため、タクシーの需要が多い。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共に新規契約数は前年同期と同水準で推移している。また、放送サービスの解約数が減少傾向である。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・今月は秋の行楽客や隣接する百貨店の食に関するイベントの来街者に加えて、期間限定のポイント還元キャンペーンなどにより、飲食店や最寄り品店はにぎわっている。一方、衣料品店では販売の動きが鈍い状況が続いている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・10月中旬に改装を終えた海外ブランド部門が全館の売上をけん引した。また、食品物産展やワールドフェアといった催事も集客に寄与し、婦人服や化粧品など各階への買い回り効果が出ている。
	□	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ここ最近は気候が秋らしくなっており、ファッション関連は堅調な動きといえるが、エネルギー情勢などによる物価高や世界情勢の先行きに不透明感があり、良い方向には向かっていない。
	□	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・取り寄せグルメや食品の限定販売には早朝から長蛇の列ができるなど来客数が増えた。しかし、10月は例年より雨天の日が多く、地域イベントからの集客や館内への入店が減少したため、来客数全体では横ばいである。
	□	コンビニ（店長）	単価の動き	・前年と比べて売上は上がっているが、来客数は減少傾向のため、トータルでは変わらないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価上昇は続いているが、提案力のある商品については購買意欲が強くなっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・天候不順という要因もあるが、根本的に節約志向が強いため、販売の拡大につながらない。
	□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・パソコンについては、前年にＯＳサポート終了に伴う特需があり、その反動減が大きくなっているものの、家電全体では前年と同水準であるため堅調である。
	□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・金利や物価の上昇に加えて、自動車の販売価格も上がっているが、受注台数は一定水準を維持している。
	□	その他小売［ショッピングセンター］（統括）	お客様の様子	・前月は大型連休があったため、衣料品を始めとして行楽関連商材の売行きが良かったが、10月に入り購買行動が変化し、客は衣料品や服飾品への支出を控えている。趣味関連の商材の売行きは好調である。
	□	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・インバウンドも含めて、昼はある程度の来客数はあるが、夜は少ない。
	□	競輪場（職員）	販売量の動き	・開催レースによって前年の水準を上回ることもあれば、下回ることもある。今月はＷｅｂシステムのぜい弱性の影響で一部売場において売上が大きく下がっている。
	□	住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・新規来客数や商談数に大きな動きは見られない。

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	▲	一般小売店［書籍］（従業員）	お客様の様子	・買い控えや節約の傾向が顕著にうかがえる。
	▲	一般小売店［鮮魚］（経営全般）	販売量の動き	・販売量が目に見えて減ってきている。水産物の価格が上昇し、景気が悪いのに仕入価格だけが跳ね上がっている。食品全般で値上げラッシュが続いており、生活防衛としての買い控えが完全に定着している。
	▲	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・物価高騰の影響はまだ続くと考える。
	▲	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・７月と同様に県独自で物価高対策のキャンペーンを実施しているが、客の反応は鈍くなっている。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車、中古車、サービス利用共に受注が苦戦している。
	▲	その他レジャー施設［スポーツクラブ］（経営者）	来客数の動き	・物価高騰により、来客数の動きがやや悪くなっている。
	×	コンビニ（店長）	販売量の動き	・販売価格の上昇により来客数が減少し、売上が減っている。カウンターで販売するコーヒー類の値段は他のコンビニチェーンより20円程度高く、当店では来客数の減少が止まらない。人件費は高騰しており、経費抑制のため、賞味期限の短い商品の発注量を極限まで絞っていることから、棚に陳列する商品数量が少なくなり、販売が落ち込んでいる。
企業動向関連	◎	－	－	－
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は６月決算だが、電気工事部門では既に受注目標金額を達成している。
	□	プラスチック製品製造業（広報）	取引先の様子	・物価高が継続し、消費者の買い控え傾向というネガティブな状況は変わらないと考える。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・目先の受注動向はほぼ横ばいである。客からの情報に特に良い事象はなく、車載部品の一部は若干の減少傾向である。民生品はほぼ変化がない。産業機器関係は、数量が増加して推移する製品はあるが、全体に大きく影響を与えるほどではない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・米国の中間選挙の結果次第では、株価変動などにより景気の方向性が変わるかもしれないが、現状の市場は様子見の状態なのか、受注量は変化していない。
	□	司法書士	取引先の様子	・特に飲食業では廃業する店舗が多く、厳しい経営環境が続いている。一方で、駅周辺では新規開店する店舗もみられるなど地域によって動きに差があることから、景気は一進一退の状況にあると考える。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産関連では、活発な話が聞こえてこない。
	×	－	－	－
雇用関連	◎	－	－	－
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・半導体関連の求人数が増加傾向にある。
	□	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・求人数は、自動車部品メーカーからの派遣依頼が急回復するなどして好調である。しかし、求職者数の確保は依然として厳しく、求人数が増えても派遣人員数が増えないため、横ばいである。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・建設や運輸、サービス業等では慢性的な人手不足が続いており、人手不足感に大きな変化はない。また、従業員の高齢化が深刻な状況に加えて求職者も高齢者が多く、求人企業とのマッチングが難しい。
	▲	－	－	－
	×	－	－	－

〈景気の先行き（２～３カ月後）に対する判断理由〉

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	◎	一般レストラン（統括）	・今後は年末年始まで地域の外食産業は全体的ににぎわうと予測している。国内観光客とインバウンドが増えていることに加え、今後は、地元客の宴会シーズンとも重なり、冬の幸が出そろうなど、外食市場が良くなる要因が多くなる。
	◎	タクシー運転手	・これから年の瀬に入り、ボーナス時期になる。忘年会などが多いと予想されるため、忙しくなるとみている。
	○	商店街（代表者）	・11月は紅葉やカニなど冬の味覚を目的とした国内観光客が年間で最も活発になる時期であり、更なる観光客の増加が期待できる。また、米国やドイツを始めとする欧米客の来客数や客単価の伸長傾向が定着していることに加え、地元客との強固な信頼関係による高額品の需要も盤石である。秋冬の観光が本格化するシーズンに向けても高水準の売上が続くとみている。
	○	コンビニ（店舗管理）	・米の仕入価格が劇的に下がるはずである。
	○	一般レストラン（経理）	・2024年１月に発生した能登半島地震以降、徐々に復興は進んでおり、来客数は増加傾向にある。
	□	百貨店（販売促進担当）	・ここ最近のサイバー攻撃など、世間には新たな不安感がある。
	□	百貨店（販売担当）	・食品売場や食の催事、クリスマスやおせちについては前年並みを維持すると見込んでいる。一方、ランドセルは前年より大幅に低迷するとみている。ここ数年のランドセルブームが完全に終了したことや商品価格の高騰が影響し、孫や子供のための購入にも価格訴求が浸透している。また、前年好調に推移した防寒アウターは、気候に左右されるため、今年の主力衣料品の動きが読めない。さらに、富裕層の高額品購入にばらつきがあり、今後への不透明感がある。当面は現状維持かやや低迷するとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・物価高が続き、当分の間は節約志向も続くとみている。
	□	家電量販店（店長）	・2027年に省エネ基準が大幅に引き上げられるためエアコンの販売は伸びている。しかし、他の商品の下げ幅が大きいためトータルでは変わらないと考える。
	□	乗用車販売店（総務担当）	・物価高で、客の購買マインドが向上しにくい環境がしばらく続くと考える。
	□	住関連専門店（役員）	・年内は季節の変わり目による需要が増加するため、一定の期待は持てる。しかし、積雪の影響や継続する販売量の減少と相殺され、回復には向かわないとみている。
	□	その他専門店［酒］（経営者）	・景気は大変冷え込んでいるが、これ以上悪くならないことから変わらないと考える。
	□	その他小売［ショッピングセンター］（統括）	・衣料品の売行き不振をカバーするため、競合店とポイント付与やセールを競い合っており、コストが増加している。
	□	一般レストラン（店長）	・予約状況では混雑の時間が集中し、閑散とした時間帯と差がある。
	□	スナック（経営者）	・世界情勢や物価高などの影響により、景気が悪いという声をよく聞く。
	□	観光型旅館（経営者）	・11月以降は県の宿泊支援策の効果がなくなるものの、予約は順調に推移している。
	□	通信会社（役員）	・ＡＩ需要拡大を背景とした半導体不足により、設備や端末の価格上昇や供給不足が続いているものの、業績悪化に直結するほどではないため、２～３か月程度の短期的な影響は限定的とみている。
	□	住宅販売会社（従業員）	・新築住宅は厳しい状況が続くとみているが、リフォーム関係の受注は順調に進んでいる。新築は物価が安定し、先が見える環境にならないと改善は厳しい。
	▲	一般小売店［事務用品］（店長）	・今年は長雨や台風などの自然災害が多く、食料品価格が高騰すると考える。さらに、電気・ガス料金支援がないと、消費者の購買意欲低下につながるため、特に小売業が打撃を受けることを懸念している。
	▲	一般小売店［鮮魚］（経営全般）	・この先、寒くなるにつれ、家庭の電気料金やガス料金が跳ね上がり、生活防衛意識が更に高まると考える。年末年始で一瞬の盛り上がりはあるとみているが、年を越すと元の厳しい状況に戻ると考える。

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	▲	百貨店（売場担当）	・以前は年金給付月に高齢者の来店が増えてまとめ買いもあったが、８月頃から減ってきている。天候や物価高の影響もあるが、高齢者は生活防衛意識が高いようである。
	▲	スーパー（店長）	・物価上昇の流れは変わらず、厳しい状態が続いている。
	▲	コンビニ（店長）	・最低賃金引上げにより、フランチャイズ加盟店の負担は重い。店によってはワンオペの時間帯を設けたり、オーナーが自らシフトに出たりするなどして対策を講じていると聞くが、人件費は店舗の問題であるというフランチャイズ本部のスタンスに変化がなければ、数年以内に廃業する加盟店も出てくると考える。
	▲	テーマパーク（役員）	・物価高などにより全体的に消費がやや鈍り、旅行需要にも影響が出ているため、やや悪くなるとみている。
	▲	美容室（経営者）	・ここ最近、中小零細企業の倒産のニュースが多い。物価高や人手不足は深刻な問題である。
	▲	住宅販売会社（営業）	・厳しい外部環境が続くが、客の動きはむしろ活発化している。物価高による建築価格上昇と住宅ローン金利上昇に備え、駆け込み需要が一部で発生している。しかし、この動きは長く続かず、年度終盤には客の動きが鈍化すると懸念している。
	×	商店街（代表者）	・地方では企業の増収や増益の話はあっても、昇給の話は聞こえてこない。客の様子をみても、景気が良くなっているのか、甚だ疑問である。
	×	コンビニ（店長）	・同業他社のチェーン加盟店と比較して商品単価が高いことに加えて、本部ロイヤリティも高いため経費が使えない。本部が行う対策も目立つイベントはなく、おにぎり１個200円以上で販売しているコンビニの現状では、販売量を上げる方法はかなり限られている。
企業動向関連	◎	－	－
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内では、物流設備やインフラ関連など一部の産業分野において需要は堅調である。一方、海外では北米を中心として需要の弱さや在庫調整の影響が続いている。なお、補修関連の需要は底堅く推移しており、全体としては市場や地域によってばらつきがみられる。
	○	一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械業界の受注状況は引き続き好調である。
	○	建設業（経営者）	・年末に向けて、降雪前の発注量が増える。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・一部の民生品や産業機器関係の新規製品の引き合いが活発な状況が続いている。ここ２～３か月では、金型や設備関係の受注は見込めるが、製品販売に結び付く状況ではないため、大きな変動はないとみている。
	□	金融業（融資担当）	・中小零細企業は物価高、賃上げ、金利引上げ等の影響により収益が圧迫される厳しい状況が続くとみられる。米国の中間選挙以降の海外情勢の先行きは不安定で、現状維持から大きく変化する要素が見当たらない。
	□	不動産業（経営者）	・個人客からの問合せがかなり少なく、法人客からの問合せも減ってきている。
	▲	繊維工業（総括）	・原材料価格がここに来て更に高騰する傾向にあることに加え、欧米の政情不安から先行きを懸念する声が高まっている。
	▲	輸送業（経理）	・原油価格の高止まりが続いていることから、やや悪くなるとみている。
	▲	金融業（融資担当）	・原材料価格の高騰を見据えた設備投資の一巡も想定され、今後は企業業績の悪化から、投資の抑制等の影響を懸念している。
	×	－	－
雇用関連	◎	－	－
	○	新聞社［求人広告］（担当者）	・求人数が増加傾向にある。
	□	職業安定所（職員）	・今後も賃上げや物価上昇、中東情勢等の影響について注視していく必要がある。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・人手不足が改善する要素がなく、最低賃金が大幅に引き上げられて経営環境の厳しさは増すものの、景気はこのままの状況が続くとみている。
	▲	－	－
	×	－	－